

平成 26 年度 神戸市学力定着度調査の結果について

1. 調査の概要

- 標準実施日 平成 26 年 10 月 21 日(火)22 日(水)
- 調査内容
 - ①教科に関する調査
 - 小学 5 年生 (国語、社会、算数、理科)
 - 中学 2 年生 (国語、社会、数学、理科、英語)
 - ②学習意欲や学習方法、生活の諸側面等に関する児童生徒質問紙調査
 - ③教員質問紙調査
- 調査に参加した学校数・児童生徒数・教員数

神戸市	学 校 数	児童生徒・教員数
小学 5 年生	167 校	12,831 人
中学 2 年生	84 校(特別支援学校 2 校含む)	11,433 人
教 員	251 校(特別支援学校 2 校含む)	5,630 人

2. 調査結果の概要

(1) 各教科の平均正答率

(単位：%)

	教科等	教科全体				知識・活用				
		本市 平均	参考値	比較	評価		本市 平均	参考値	比較	評価
小学 5 年 生	国 語	66.7	70.6	－3.9	課題がある	知識	68.5	71.8	－3.3	課題がある
						活用	62.8	68.0	－5.2	課題がある
	社 会	69.8	71.1	－1.3	概ね定着	知識	69.6	72.4	－2.8	概ね定着
						活用	70.4	68.5	＋1.9	概ね定着
	算 数	59.0	63.1	－4.1	課題がある	知識	63.6	69.8	－6.2	課題がある
						活用	50.2	50.1	＋0.1	概ね定着
	理 科	64.4	67.7	－3.3	課題がある	知識	66.8	72.0	－5.2	課題がある
						活用	58.5	57.0	＋1.5	概ね定着
中学 2 年 生	国 語	68.7	68.4	＋0.3	概ね定着	知識	71.6	71.2	＋0.4	概ね定着
						活用	62.6	62.7	－0.1	概ね定着
	社 会	55.6	53.8	＋1.8	概ね定着	知識	61.6	60.1	＋1.5	概ね定着
						活用	39.1	36.4	＋2.7	概ね定着
	数 学	61.3	54.5	＋6.8	良好である	知識	69.2	62.7	＋6.5	良好である
						活用	44.0	36.4	＋7.6	良好である
	理 科	53.5	52.6	＋0.9	概ね定着	知識	57.2	55.9	＋1.3	概ね定着
						活用	45.7	45.8	－0.1	概ね定着
	英 語	66.6	59.4	＋7.2	良好である	知識	73.2	66.9	＋6.3	良好である
						活用	52.3	43.1	＋9.2	良好である

※ 調査結果評価の分析にあたって、正答率の比較を行う際には、次の基準を設けている。

＋3 ポイント以上 … 良好である

－3 ポイント以下 … 課題がある

＋2.9 ポイント～－2.9 ポイント … 参考値と同程度であり「概ね定着している」と評価した。

※ 知識 … 基本的・基礎的な知識や技能に関する問題

※ 活用 … 知識や技能の活用に関する問題

※ 参考値 … 学習内容が定着しているかどうかを判断する際の目安となる値

(2) 各教科の領域別の平均正答率

(単位: %)

	教科	領 域	本市平均	参考値	比較	評価
小 学 校	国語	話すこと・聞くこと	67.0	71.0	-4.0	課題がある
		書くこと	73.6	86.0	-12.4	課題がある
		読むこと	58.0	58.5	-0.5	概ね定着
		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.8	74.4	-3.6	課題がある
	社会	地域の様子	78.7	72.0	+6.7	良好である
		生活や安全を守る活動	74.1	75.1	-1.0	概ね定着
		国土の自然などの様子	56.4	64.2	-7.8	課題がある
	算数	数と計算	61.4	67.6	-6.2	課題がある
		量と測定	72.4	73.7	-1.3	概ね定着
		図形	47.7	53.8	-6.1	課題がある
		数量関係	52.8	50.8	+2.0	概ね定着
	理科	物質・エネルギー	59.9	62.0	-2.1	概ね定着
		生命・地球	66.2	70.0	-3.8	課題がある
中 学 校	国語	話すこと・聞くこと	66.4	73.0	-6.6	課題がある
		書くこと	74.5	77.5	-3.0	課題がある
		読むこと	59.9	59.5	+0.4	概ね定着
		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.4	72.8	+2.6	概ね定着
	社会	世界の様々な地域	61.2	58.1	+3.1	良好である
		日本の様々な地域	58.9	56.1	+2.8	概ね定着
		古代までの日本	57.1	54.7	+2.4	概ね定着
		中世の日本	30.9	30.7	+0.2	概ね定着
		近世の日本	60.4	62.3	-1.9	概ね定着
	数学	数と式	68.5	57.9	+10.6	良好である
		図形	55.0	51.1	+3.9	良好である
		関数	58.3	52.5	+5.8	良好である
		資料の活用	48.4	49.7	-1.3	概ね定着
	理科	物質	52.1	52.7	-0.6	概ね定着
		エネルギー	51.9	51.4	+0.5	概ね定着
		生命	55.8	53.3	+2.5	概ね定着
		地球	53.2	53.0	+0.2	概ね定着
	英語	聞くこと	76.7	72.2	+4.5	良好である
		読むこと	64.1	57.5	+6.6	良好である
		書くこと	61.3	51.4	+9.9	良好である

(3) 教科に関する調査結果概要

① 教科全体の状況

- ・小学校では、すべての教科において平均正答率が参考値を下回っている。
- ・小学校社会は「概ね定着している」と評価できるが、他の3教科は参考値を3ポイント以上下回っており、「課題がある」という結果である。
- ・中学校では、すべての教科において平均正答率が参考値を上回っている。
- ・中学校数学・英語は3ポイント以上参考値を上回っており、「良好である」という評価であり、国語・社会・理科では「概ね定着している」と評価できる。

② 知識と活用問題の状況

- ・小学校では、社会・算数・理科において、基本的・基礎的な知識や技能に関する問題より、知識や技能の活用に関する問題の状況が良い。

③ 各教科の領域別の状況

- ・各領域における評価は表のとおりである。
- ・中学校数学では、「数と式」・「図形」・「関数」の3領域とも参考値を3ポイント以上上回っており、「良好である」という結果である。特に「数と式」領域においては10ポイント以上上回っており、非常に良好な状況と判断できる。
- ・中学校英語では、3領域すべてにおいて参考値を3ポイント以上上回っており、「良好である」という結果である。

(4) 児童生徒質問紙調査の結果(抜粋)

※平成25年度は抽出調査の結果 (単位%)

項 目		平成26年度		(参考) 平成25年度	
		小学5年	中学2年	小学5年	中学2年
1	朝食を毎日食べている。「毎日食べている」「どちらかといえばしている」と答えた割合)	94.2	91.4	92.7	91.5
2	自分には良いところがあると思う。「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた割合)	75.6	63.8	69.2	60.4
3	学校の授業時間以外に、ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間勉強しますか。「30分以上勉強している」と答えた割合)	88.0	84.4	89.0	85.2
4	家で(児童館や図書館を含みます)、ふだん(月曜日から金曜日)、1日にどのくらいの時間、読書をしますか。(本を読んでいると答えた割合)	82.4	57.4	82.2	58.2
5	学校であったことや友だちのことを家の人と話している。「している」「どちらかといえばしている」と答えた割合)	81.7	68.7	81.6	68.0
6	携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしますか(ほぼ毎日していると回答した割合)	15.6	32.0	18.3	35.8
7	ふだん(月曜日から金曜日)、1日にどのくらいの時間、インターネットをしますか。(1時間以上していると答えた割合)	21.0	45.1	22.7	44.6
8	宿題ができれば、している。「している」「どちらかといえばしている」と答えた割合)	93.8	86.4	92.5	83.6
9	1日にどのくらいテレビゲームをしますか(1時間以上していると答えた割合)	41.0	42.5	41.4	40.5
10	学校のきまりを守っている。「している」「どちらかといえばしている」と答えた割合)	90.3	94.7	88.9	94.7
11	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う(「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答	94.3	94.5	91.9	93.5

	えた割合)				
12	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。(「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた割合)	96.1	93.7	92.5	91.1
13	人の役に立つ人間になりたいと思う(「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた割合)	94.4	94.4	92.0	93.1
14	授業が分かる(「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた割合)	90.2	78.2	89.7	78.5
15	無料通信アプリを1日にどのくらいの時間使っていますか(1時間以上使うと回答した割合)	12.8	33.3	—	—

※ 平成25年度の欄に「—」がある設問は、平成26年度の新規設問である。

(5) 児童生徒質問紙調査の結果概要

[自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合]

・小中学校とも増加している。

[携帯電話やスマートフォンで通話・メールを、ほぼ毎日している割合]

・小中学校とも減少している。

[ふだん(月曜日から金曜日)インターネットを1時間以上している割合]

・小学校では減少しているが、中学校では増加している。

[ふだん(月曜日から金曜日)テレビゲームを1時間以上している割合]

・小学校では減少しているが、中学校では増加している。

[人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている割合]

・小中学校とも増加している。

[いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている児童生徒の割合]

・小中学校とも増加している。

[人の役に立つ人間になりたいと思っている割合]

・小中学校とも増加している。

(6) 教員質問紙調査の結果(抜粋)

① 児童生徒にどのようなことが不足していると思いますか。(複数回答)上位5項目 (単位%)

	小学校		中学校	
1	耐える力	50.5	耐える力	52.2
2	基本的なしつけ	25.6	基本的なしつけ	30.9
3	外での遊び	19.4	家族とのふれあい	21.3
4	基本的な生活習慣	18.5	規範意識	20.4
5	学力(活用する力)	17.5	学力(基礎・基本の力)	18.6

② 教育課題の中で特に重視していきたい項目を選んでください。(複数回答)上位5項目 (単位%)

	小学校		中学校	
1	学力の向上	60.9	道徳・倫理観・規範意識の向上	57.1
2	道徳・倫理観・規範意識の向上	53.5	学力の向上	52.5
3	教員としての資質や指導力の向上	34.8	教員としての資質や指導力の向上	34.4

4	いじめ・不登校のない学校づくり	29.9	基本的な生活習慣の指導	25.0
5	基本的な生活習慣の指導	21.9	いじめ・不登校のない学校づくり	22.1

③ 「分かる授業」を行うために重視していることを選んでください。

(複数回答)上位5項目 (単位%)

	小学校		中学校	
1	教材研究	70.0	教材研究	68.8
2	導入・発問の工夫	36.4	わかりやすい説明の工夫	55.0
3	わかりやすい説明の工夫	35.3	導入・発問の工夫	34.2
4	ペア学習・グループ学習などの小集団学習	28.1	板書の工夫	22.7
5	児童生徒の主体的な活動	24.6	ペア学習・グループ学習などの小集団学習	20.9

④ あなたは、児童生徒に対する指導に関して、次のようなことをどの程度行いましたか。

(「よく行った」「どちらかと言えば行った」の合計値)※平成25年度は抽出調査。(単位%)

項 目		平成26年度		(参考) 平成25年度	
		小学校	中学校	小学校	中学校
1	授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れている。	94.2	83.8	—	—
2	授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている。	75.8	74.2	—	—
3	各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けている。	78.5	70.4	—	—
4	児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている。	85.8	82.3	90.4	88.0
5	児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている。	93.4	82.1	95.1	83.5
6	学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守る等)の維持を徹底している。	96.4	95.5	96.3	94.0
7	学習方法(適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習する等)に関する指導をしている。	91.8	86.2	90.4	86.4
8	学級やグループで話し合う活動を授業などで行っている。	88.0	53.1	—	—
9	ペア学習、グループ学習などの小集団学習を授業の中に取り入れて指導している。	85.9	55.3	85.6	55.4
10	児童生徒に対して、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしている。	71.8	50.6	71.8	53.1